

## 忌部山古墳群

お-3



1号墳



2号墳

徳島博物館が昭和51年(1976)から昭和53年(1978)までの間に3次にわたる調査を実施した。調査の結果、6世紀後半から7世紀前半までに築造された横穴式石室を持つ円墳であると推定される。古墳は5基確認され、1号、2号及び5号古墳が発掘調査されている。死者を埋葬する横穴式石室の形状が、吉野川市を中心としたこの地域だけに見られる独特なものであり、玄室天井部はドーム状に持ち送っていることから「忌部山型石室」と呼ばれている。海拔250m前後の尾根上に分布し、鴨島町から山川町にかけて23基確認されている。



3号墳



4号墳



5号墳

## 金勝寺古墳

え-2



金勝寺東側の墓地内にある。古墳は石室直上まで近世から現代にかけての墓地として造成されている。防空壕として使用されていたこともあったという。封土の大部分が失われているために墳丘の形態は不明であるが、円墳であったと推定される。

石室の形状はいわゆる忌部山型石室構造の特徴である、奥壁隅が丸い横穴式石室で、玄門部は立石、天井部分はほとんど失われているが、石材をややドーム状に持ち送っている。

## 旗見の窯跡

う-3



この窯跡は、昭和41年(1966)に発見された。付近の集落名をとって旗見の窯跡と呼ぶ。

昭和42年同志社大学森浩一教授によって発掘調査された。出土品は8世紀後半もしくは9世紀ごろのもので、これにより須恵器その他を造った窯跡であることが判明した。

窯は登窯で20度から30度の傾斜があり、底にあたる部分が残っている。大きさは長さ9.3m、幅1.5m、高さ約1mと推定される。

## 西の原古墳

う-3



「無縁大師塚」とも呼ばれている。石室は川原石を積んで築造しているのが特徴である。石室構造は横穴式(墳丘側面から石室までの通路および入口をもつ構造)である。墳丘は羨道という石室までの通路の大部分が削られ、開口部分には現在石室内に祀られている弘法大師像を拝むための階段が取り付けられている。規模や形態は不明であるが、円墳であったものと想定されている。

## 境谷古墳

う-3



この古墳は7世紀前半ごろに造られた横穴式円墳でほぼ原型を留める。

墳丘の大きさ南北ともに13m・高さ3.5m・奥行3.2m・幅1.8mであり、特徴は玄室内が三味線の胴形で四隅が丸く築かれ、天井石は真中に向かって順次積み重ねられており、忌部山型石室古墳の一つである。

出土品は山川地域総合センター 2階に一部展示されている。



船窪つつじ公園上空から北を望む

## 山川町・美郷西部文化財 MAP

TOKUSHIMA

吉野川市

国指定重要文化財(絵画)

## 高越寺と絹本著色仏涅槃図

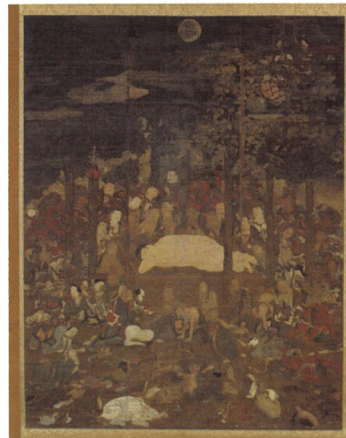
あ-4



高越寺は真言宗大覚寺派に属し、大智天皇(在位661～671)の時代に役の行者小角によって開基されたと伝えられている。

かつては東の「吉野」、西の「高越」と並び称され、修験道の道場として賑わった。本尊は金剛蔵王尊。入り口の山門には見事な彫刻が施されている。

絹本著色仏涅槃図は、高越寺に伝わる絹地に彩色が施された縦154.5cm、横120cmの仏涅槃図である。涅槃図とは釈迦入滅の情景を描いたもので、仏教において釈迦の冥福を祈るための法要である涅槃会の際に用いられる仏画である。画面中央には沙羅双樹の下で臨終した釈迦が描かれているが、右腕を手枕として右脇を下にして横たわる姿は鎌倉時代の特色という。京都国立博物館に寄託されている。



国指定天然記念物(動物)

## 美郷のホタルおよびその発生地(美郷全域)



美郷には、ゲンジボタルをはじめ、ヘイケボタル、ヒメボタル、オバボタル、オオマドボタルの5種類が確認されている。ホタルの発生が特に多く確認されている範囲は、川田川の大正橋付近から田平橋付近までの約4.8kmであるが、支流の種野谷川、中の谷川、奥丸谷川などでも多く確認されている。昭和41年(1966)に地元有志によって「ホタル愛護の会」が発足し、ホタルの保護活動が地域をあげてはじめられた。また同じ頃、中枝小学校(現在休校中)においては、子どもたちが原田一美教諭指導のもとに「ホタル研究クラブ」が発足し、ホタルの観察、飼育がはじめられた。美郷の河川流域をホタルが発光しながら乱舞する光景は、「光の吹雪」とも例えられるほどである。

文化財マップ  
(PDFデータ)は  
こちらから無断転載禁止  
2023.3